

1. 科目名（単位数）	図画工作科指導法 （2 単位）	3. 科目番号	SJMP2395 SJMP2295 EDEL2314
2. 授業担当教員	井戸川 敦		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育（公教育）で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。		
8. 学習目標	1.図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できる。 2.造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができる。 3.図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができる。 4.学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。		
9. アサイメント （宿題）及びレポ ート課題	1.年間スケジュール・学習指導案・模擬授業の作成と研究。 2.毎時の授業において製作する作品を提出。 3.授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 日本造形教育研究会編集『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』開隆堂出版 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省 東京アカデミー編『教員採用試験対策参考書 小学校全科』七賢出版 （上記参考書は授業の進行に伴い適宜資料として提示する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。） 【教材】 製作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1.図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できるか。 2.造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるか。 3.図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができるか。 4.学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができるか。 ○評定の方法 授業内の課題…30% ポートフォリオ…40% 最終課題…30%		
12. 受講生への メッセージ	1.単なる知識や方法・技法の伝達だけにとどめず「造形表現の良さや素晴らしさ」を、子どもたち一人ひとりに伝えていけるような教員になってほしい。日常生活の中での様々な出来事に興味関心をもちながら、豊かな感性とこころを養ってほしい。 2.学習においては、指示されたノルマやプログラムにのみ限るのではなく、創意工夫、試行錯誤を試み、自己の責任で判断していく習慣を身につける「造形学習の本質」を体験しながら、実社会で役立つ力を養ってほしい。 3.教員採用試験も念頭におきながら授業を進める。 ※授業日程は進行状況によって調整する場合がある。		
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 （講義）	事前学習	教科書『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』に目を通す。 「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか。これまでの学習経験をふりかえり、特に印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が教員になった際、子どもたちが豊かに、安心して製作できる環境設定を考える。
		事後学習	自身のこれまでの製作経験を振り返り、考えたていたこと、感じていたことをまとめる。
第2回	◇ 表現の基礎 造形表現の基礎的技能について （講義＋演習）	事前学習	教科書 pp.30-31 を読む。 また、造形表現の基礎的技能について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
		事後学習	学習したことを、各自ノートにまとめる。 授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。
第3回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「造形遊び」 （講義）	事前学習	参考書『教員採用試験対策参考書 小学校全科』図画工作の学習指導要領の項に目を通す。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。

第4回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「絵や立体、工作」① (講義+演習)	事前学習	教科書 pp. 12-13 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第5回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「絵や立体、工作」② (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.18-19 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第6回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「絵や立体、工作」③ (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.42-45 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第7回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「鑑賞」① (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.60-61 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第8回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「鑑賞」② (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.80-81 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第9回	◇ オンライン美術館 Google Arts & Culture を使用して、ICT 教育に ふれる (講義)	事前学習	教科書 pp. 86-87 を読む。
		事後学習	オンライン美術館 (Google Arts and Culture) を鑑 賞し、各自ノートに関心のある作家名・作品名をま とめる。
第10回	◇ 学習指導要領 I 小学校学習指導要領解説 図画工作編の要点 (講義)	事前学習	教科書 pp. 88-89 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。
第11回	◇ 学習指導要領 II 図画工作科の目標と各学年の目標について (講義)	事前学習	教科書 pp. 104-129 に目を通す。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。
第12回	◇ 学習指導要領 III 各学年の内容について (講義)	事前学習	教科書 pp. 130-153 に目を通す。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。
第13回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「ICT 教育」① (講義+演習)	事前学習	参考書『教員採用試験対策問題集 小学校全科』図画 工作の項を解く。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第14回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義 「ICT 教育」② (講義+演習)	事前学習	参考書『教員採用試験対策問題集 小学校全科』図画 工作の項を解く。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第15回	◇ 年間スケジュールと指導案の作成 題材研究及び授業設計の構想と授業評価のあり 方について (講義+演習)	事前学習	教科書 pp.16-17 を読む。
		事後学習	各自のノートに図画工作科指導法を経験して得た気 づき、理解をまとめる。 また、授業展開の構想を練る。